

平成29年10月10日(火)15:35～16:20タイム24

平成29年度就労準備支援事業従事者養成研修第1日目講義③

釧路市生活保護自立支援プログラムから生活困窮者自立支援の取り組みへ

就労準備支援の役割と意義を考える

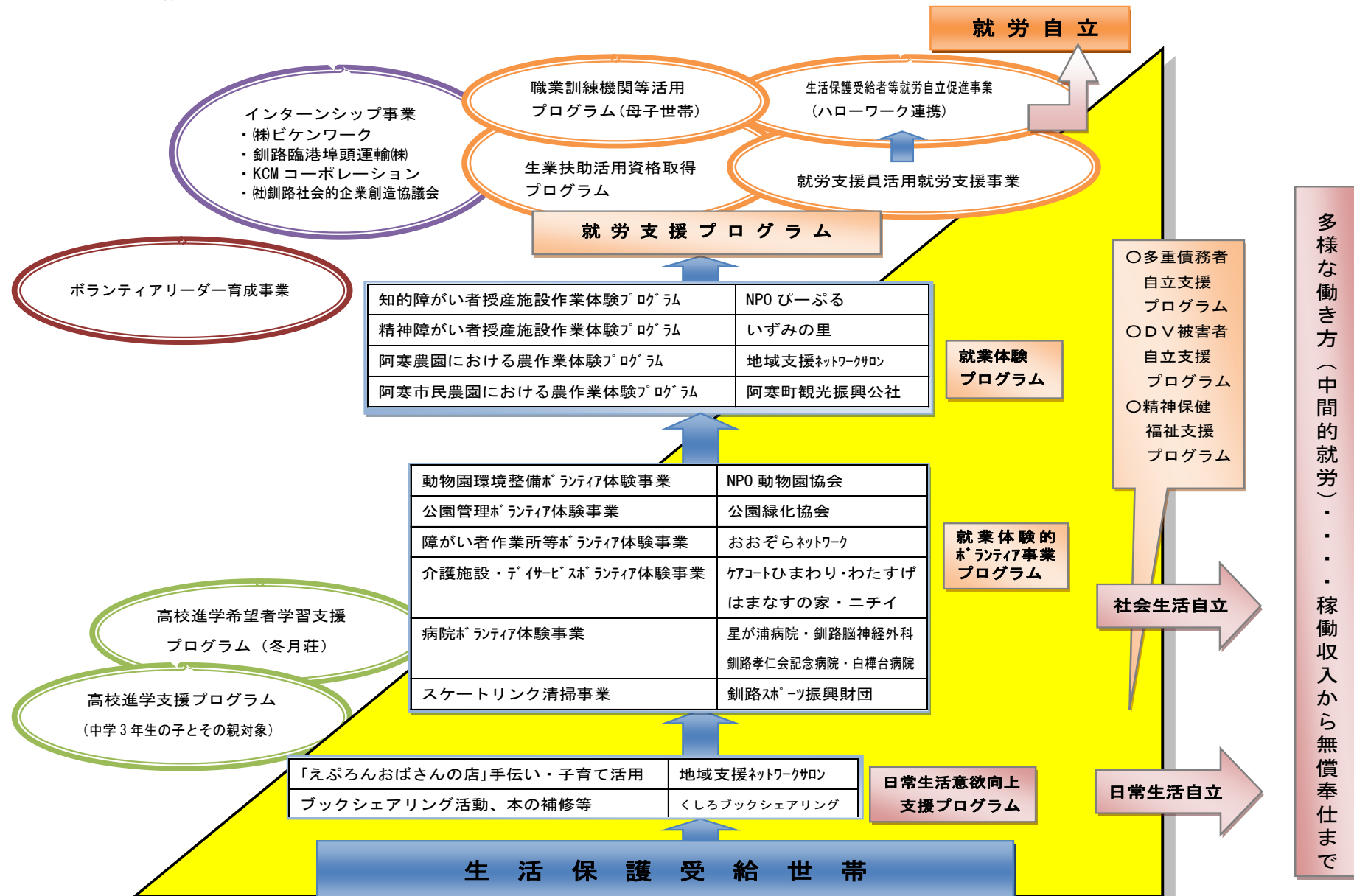
## 『かけがえのない私の獲得』

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表  
北海道釧路総合振興局管内生活相談支援センター&  
釧路市生活相談支援センター 暮らしごと センター長

櫛部 武俊

# 利用しやすく出やすい生活保護

釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況（H26年4月現在）



**日常生活意欲向上支援プログラム**

**えぷろんおばさんの店**

**就労支援プログラム**

**公園インターンシップ事業**

**就業体験プログラム**

**阿寒農園における農作業体験**

**高校進学希望者学習支援プログラム**

**冬月荘“高校行こう会”**

【支援】  
ケースワーカー・  
民生委員・パーソ  
ナルサポーター  
など

【支援】  
地域・事業所・  
関係機関  
など

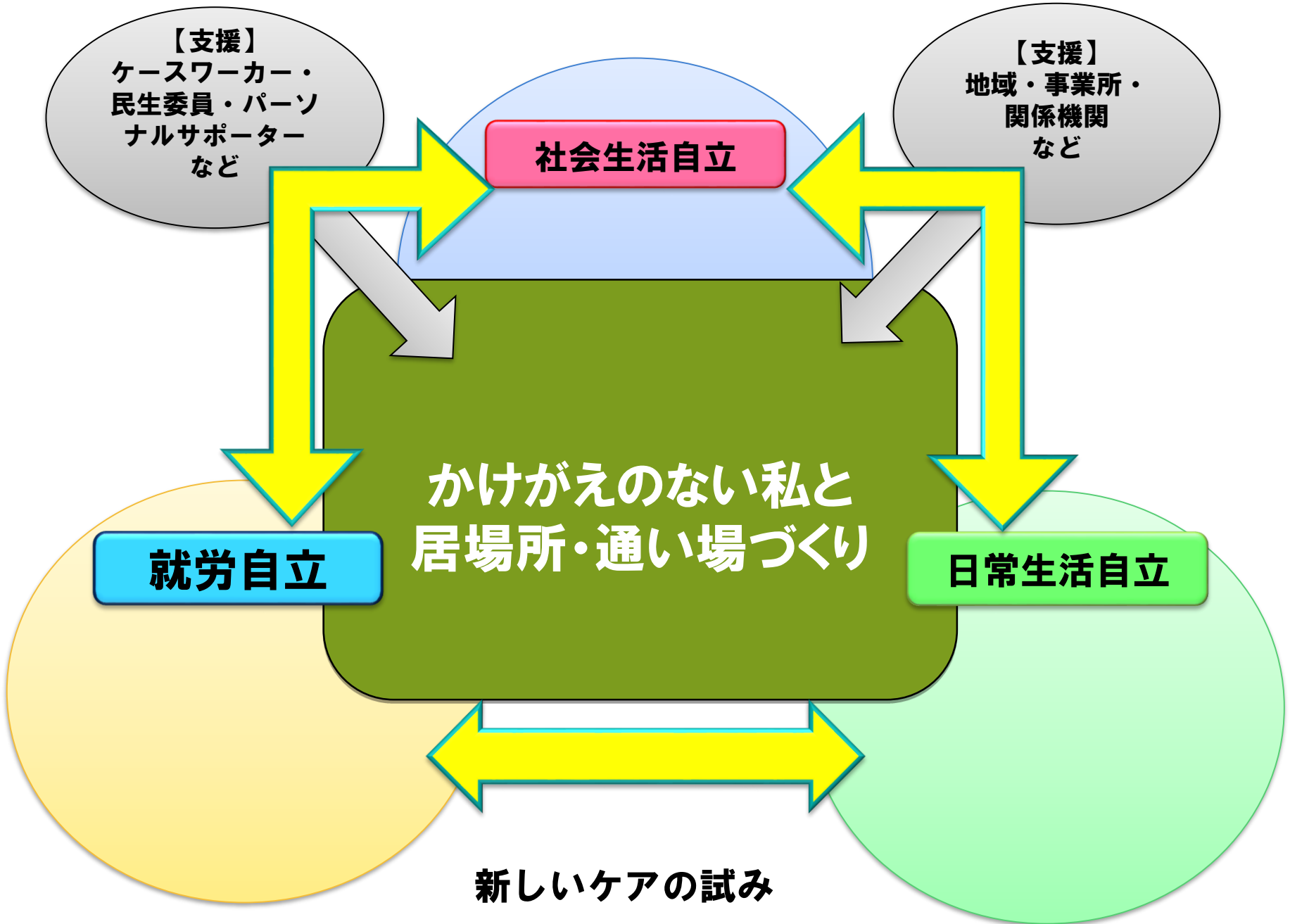
社会生活自立

就労自立

かけがえのない私と  
居場所・通い場づくり

日常生活自立

新しいケアの試み



生活保護自立支援から生活困窮者自立支援へつなぐ



◇ 自立支援を当事者目線でみると当事者自身の自尊感情の回復・承認・役割の獲得という当事者の発達保障である。

◇『一時生きる場から退場した状態にある受給者(困窮者)が自身で生きる場を再獲得していく、発達する権利主体として立ち上がっていく当事者自身の回復過程の最初の間という積極的な意味と支援の構造を生み出す』

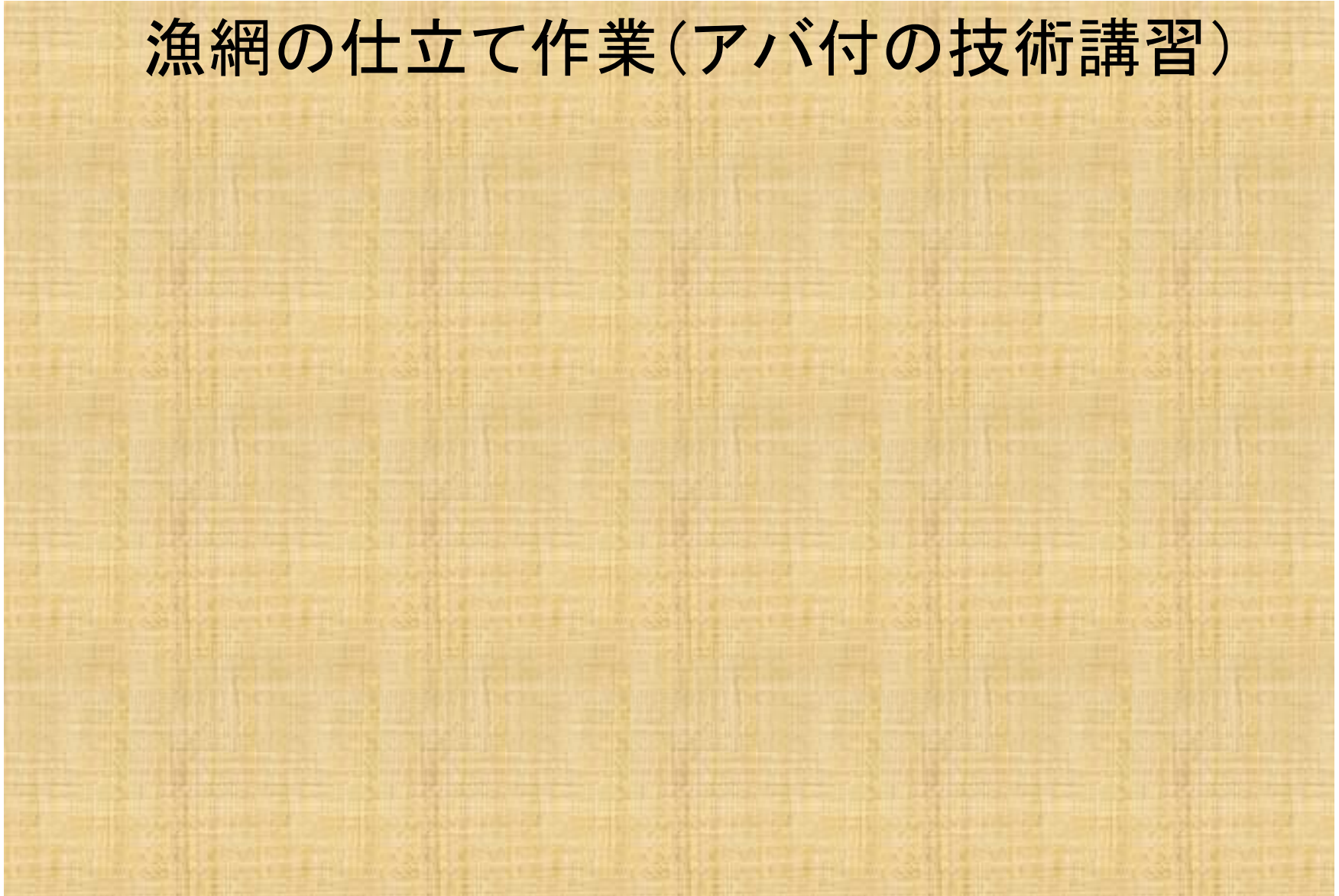
(第二次ワーキンググループ報告書)

生活困窮者自立支援が目的とする【人の尊厳】に通底する

『かけがえのない私』



# 漁網の仕立て作業(アバ付の技術講習)



# 釧路市都市経営戦略プラン

## 人材育成と 雇用づくり



生活保護受給者の  
就労の様子  
(自立支援プログラム)

地域の労働力を向上させ、釧路市を支える確かな基盤を作るため、地域経済を支える人材の育成に取り組みます。

新たな雇用の場を創出するため、企業と求職者のマッチング、雇用の場となる中小企業の支援を行うほか、ソーシャルビジネスによる雇用づくりに取り組みます。

### 具体的な取組例

- 将来の担い手である子どもたちに向けた、職業や社会を体験できる場づくりや学んだことを社会で実践できる場づくり など
- 釧路における様々な事業を支えるための有資格者の養成や人材育成を図る取組
- 生活保護受給者の中間的就労自立に向けた調査研究
- 地元技術や匠（人）の認証制度など頑張る企業、挑戦する企業を応援する取組
- ソーシャルビジネスの担い手となるNPOなどが活動しやすい環境づくり



困ったときは… **生活相談支援センター**

『**くらしごと**』へ **まずはお電話を!**

**☎0154-65-1250**

地域の中にはいろいろな  
解決方法があります。

相談あいてが  
いない  
仕事がない 生活が  
家族のことで… 苦しい



釧路市・釧路管内生活相談支援センター

**くらしごと**  
暮らし×仕事



安心した  
暮らしへ

相談・支援はすべて無料です。個人情報など秘密は厳守します。

まずはご相談ください。  
ご本人と一緒に解決方法を考えます。

こんなこと相談してもいいのかなぁ~と思っても…気軽に電話してください。

★ 詳しくは、裏面をご覧ください。★

# 釧路市指定ごみ袋の封入作業



# 清掃技能講座

# 見学・体験

# みんなで守るルール

平成 26 年 7 月 1 4 日版

1. 目標を持ち、お互いに協力する
2. 悩みや考えごとを一人で抱え込まない
3. 人の嫌がることや傷つくことは言わない、しない
4. 金銭のやり取りはしない
5. お休みする時は、必ず連絡する

釧路社会的企業創造協議会

## 本人の状況

40代男性・大卒。妻と小学校低学年の娘一人。当時、大型店にて昼夜問わず働いていた中、パニック障害になり、職場で倒れた。傷病手当金を受給しながら休職、その後退職。妻の実家に同居。

### 相談経緯

#### 相談

・散歩や趣味で体を動かしていたところ、医師から「そろそろ働く準備をしてみてもいいか？」との提案があり、就労を意識しハローワークへ行った。そこで当相談センターを紹介された。

#### 支援内容

・当初は、ゴミ袋の封入作業に参加することから始め、2度就職するも定着せず。都度就労準備の場に戻り、最終的に銭湯を経営する会社が始めた大豆畑で、3か月の間、未経験の農作業を行うことになった。結果、畑の収量は前年の1.5倍となった。

#### 就労へ

・コミュニケーションにも慣れ、体を動かすことで心身ともに回復。3か月後、未経験の製麺会社に応募し、採用が決まった。  
・【就労から1年後】就労準備の場があったお陰で、引きこもったり、ただ求人を見るだけの嫌な日々から逃れられたことも良かったと振り返る。

### 本人の変化

他者を受け入れない。

回復

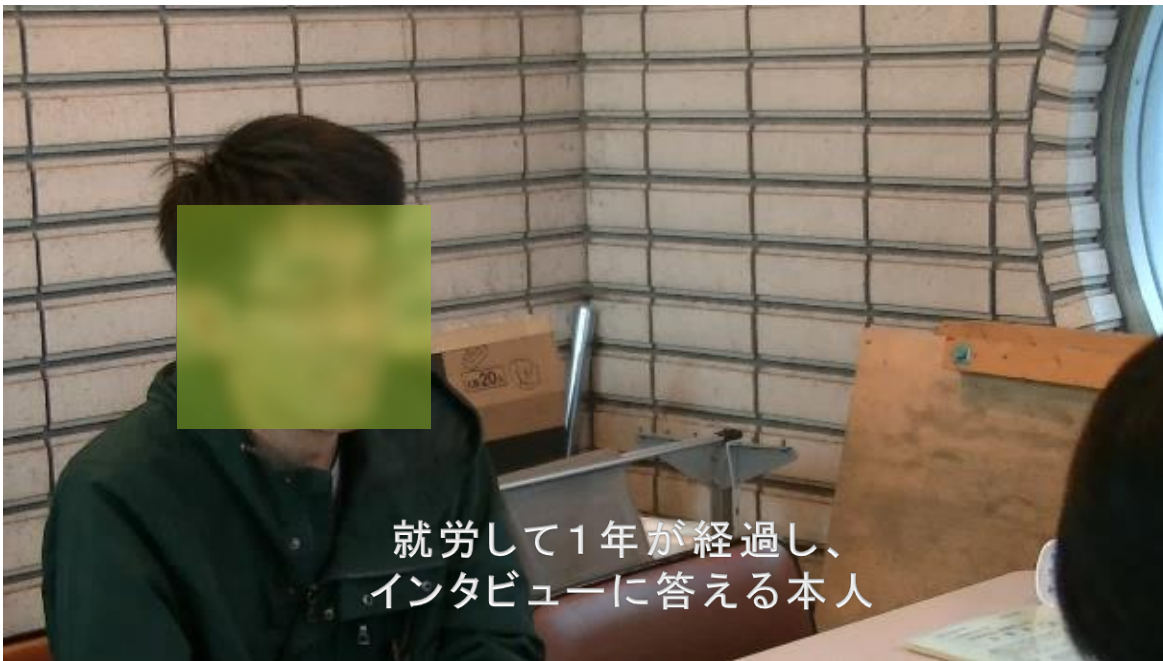
社会（他者・労働）と関わり、様々な気づきが得られ、自尊心が回復。

育成

職業選択の幅が広がり、自信を持った中で面接に臨むことができた。

### ポイント

相談者は就労準備の場を使って社会とかかわり、気づきの中で尊厳の中核・自尊感情回復を図る。



就労して1年が経過し、  
インタビューに答える本人



可燃ごみ専用袋の封入作業

協力企業の社長

大豆畑を見学している様子

# 旧音別町の地域課題と自尊心回復

- ◆人口減 2005年平成の大合併人口2,756人⇒  
2019年人口1,909人に減少
- ◆中心から周辺に。議員ゼロ。
- ◆基幹産業は酪農・林業など
- ◆営農を辞める酪農家  
生活困窮と孤立化
- ◆音別住民の自尊感情と落
- ◆雇用・困窮支援・観光など  
まるごと化と落づくり





# 事例 A氏(20代後半・男性)



## 経緯:

- 父親から「親が居なくなった時のことが心配だ」との連絡があり、母親と一緒に来所。
- 学生時代に作業系アルバイトをした以外、働いたことがない。
- 完全なひきこもりではないが、他人との接触は避けたい意向。親にもできるだけ関わって欲しくないとの考えを持つ。

## 段階を踏んだ就労準備支援の利用

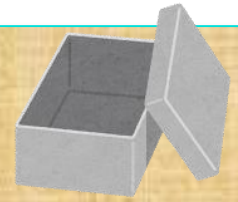
～自尊心の回復・人との関わりへの恐れや不安を軽減

(当事者が発酵する)

### 第1段階：特定の個人との関わりから

- 本人の意思を伺う為に、母親の同行無しで、来所頂き、相談員と面談開始。**緊張の為、居たたまれなくなり 汗びっしょり**となったため、短時間の面談で終了。
- 電話でも**特定の相談員**としか話せない状況。
- **1か月後**：「店舗の裏方作業の求人に応募したい」との連絡あり。結果は不採用であったが、**本人自身の行動を起こしたいという意思が見られた。**

第2段階：定期的に特定の場所に通所し、  
特定の少人数との関わりに慣れ、  
作業で身体を動かす事、工賃を得る事で、  
自分がどれだけできるか自分で確認し、  
自信をつける



- 2か月後：箱折り作業参加と事前見学へ誘い、本人の参加希望があった為、**見学・体験に同行**。週3日の参加から開始することとなり、数週間は就労準備支援員がついて作業。**自分のペースで黙々とできる作業が効果的**。

第3段階：少しずつ関わる人数が増え自信をつけていく。

- 3か月半後：並行して、市場での入店客調査(短期間・短時間就労)について情報提供し、参加意思の確認。参加希望有り。
- いつも顔を合わせる「作業仲間」もやることになり、本人の動機づけともなった。元々の作業メニューも並行して継続。

## 第4段階：自分で決めて、踏み出す。

- 4か月後：「作業仲間」とともに、家具製作会社へ支援員と同行見学。「作業仲間」は体験・実習を開始したが、本人は「物作りは苦手だ」と体験参加は辞退。
- 5か月後：通勤を考え、本人の自宅近くにある福祉施設での清掃作業の見学へ誘い、同行。  
体験・実習を希望し、まずは、1ヶ月間(週3回)参加。
- 並行して、就労準備支援の作業場のある建物内で、週2回(約1か月間)清掃技能講座(座学・実習～ポリッシャーやワックスがけ等)へ参加し修了。
- 他の参加者に配慮しながら協力して作業している様子が見られた。



- 7か月半後:参加1か月経過後、本人と福祉施設担当者、就労準備支援員が三者面談。本人から準備支援員へ「入所者と話さなければならぬ場面があり、その点が難しく、辞退したい」との話があった。福祉施設からは、真面目で丁寧な実習ぶりに対して評価が高く、賃金が発生する形での働き方を提案された。  
本人、検討し継続を決めた。無料職業紹介を活用。  
まずは1ヶ月の雇用契約でパート就労を開始した。
- 8か月半後:本人から、入所者とのやり取りは、依然として緊張感が抜けず、「出来れば人前での仕事は避けたい」との事。但し「苦手ではあるが、自分が決めたことだから決めた日時まではやろうと思っている」との話があった。福祉施設からの配慮で「次月は人と関わりの少ない現場での作業に絞るので、継続してはどうか」と提案があり、本人了承。さらに、もう1ヶ月、契約を結び直し就労。 さらに1か月後に再度面談予定。

## 〈就労準備事業は発展途上〉

自尊感情の回復・エンパワメントと捉えられているか？（社会的時間・社会的つながり・・・仲間・集団・居場所・通い場etcの表現に込められているもの）

- 職業訓練にフルに行けるだけの状況にない段階（体力面、対人面、精神面で）の方は、就労準備支援が必要＞求職者支援制度（給付）
- 求職者支援訓練に比べて就労準備支援事業は一人一人のニーズから組み立てることができる。より実践的であり、交通費、参加中の生活費が保障される事で、個人の安定感獲得と就職へつながる早道。（内職センターなどお金の出る仕組みが合わさる必要が・・・受託側にも委託側にも・・・ある）
- 人が育つという教育的な営みが事業の本質。